

(2)

現在の日本では、「リサイクル」ということばは、「使わなくなったものを人の手で回収し(※1)、新しい製品を作る原料や材料として利用すること」という意味で使われている。読み終わった新聞や雑誌を集めて紙の原料を作り、トイレットペーパーなどの製品にする、というのが、一つの例だ。

江戸時代にも、古い紙から紙を作ったりすることはあったが、その量は、今ほど多くなかった。原料がたくさんあったからとか、使う人が少なかったからとかいうわけではない。わざわざ古い紙を回収しなくても、人が普通に生活しているうちに、資源(※2)が自然に循環(リサイクル)していたのだ。

なぜそんなことができたかといえば、それは、資源のほとんどが、植物性のものだったからだ。食べたり、使って捨てたり、燃やしたりしても、それは、土に返り、また植物を育てる。つまり、植物の自然の循環(リサイクル)に合わせて、人間が生活していたということなのだ。

(※1) 回収する：一度配ったものを、また集める

(※2) 資源：自然のなかにある原料や材料

31 どうして、多くなかったのか。

- 1 人口が少なかったので、回収できるものが少なかったから
- 2 人々が物を大切に使用していたため、回収するものがなかったから
- 3 わざわざ回収したものから原料を作らなくてもよかったから
- 4 人々のまわりに、原料になるものが、今よりたくさんあったから

32 江戸時代の日本人の生活として、正しくないものはどれか。

- 1 資源になる植物を、捨てたり燃やしたりしていた。
- 2 いつも、リサイクルのことを考えていた。
- 3 植物を、いろいろなところで使っていた。
- 4 古い紙から新しい紙を作っていた。

33 今と江戸時代のリサイクルについて、正しく説明しているのはどれか。

- 1 今は資源が自然にリサイクルしているが、江戸時代は自然にリサイクルできなかった。
- 2 今も江戸時代も、資源をリサイクルするためには、自然より人の手のほうが大切だ。
- 3 今も江戸時代も、普通の生活をしていれば自然に資源をリサイクルすることができる。
- 4 今は人がリサイクルしているが、江戸時代は人がしなくても自然にリサイクルできた。